

## 世界と繋がる松養千ルドルン

館長さん僕たちペットボトルのキャップ集めてるよ

集めてどうするの？

アジアの子ども達にフクチン送るんだ

そついえばそんな運動があったね。

千個集めると一人分のフクチンになるよ

ほお！そいつは凄いな。

公民館にキャップ収集箱を置かせてもらえない？

OK！ その話 乗った！

廃棄される運命のペットボトルのキャップを資源として再利用し、収益の一部で発展途上国の子ども達にフクチンを届ける運動。開始当初ほどの勢いはありませんが、今も脈々と受け継がれています。先生からその話を聞いた松江養護学校中学部3年生の子ども達が、自分達もこの運動に参加したいとキャップ収集を始め、公民館に協力を求めて

きたのです。

彼らの提案を受けて、早速公民館ロビーと駐車場のリサイクルステーションの2か所に、彼ら手作りのポスターと収集箱を置きました。設置から10日余り、大した広報もしてないのに一万個近いキャップが集まりました。



この運動に対しては、収集したキャップの輸送や分別洗浄などに多くのエネルギーが必要で決してエコではないなど、冷水を浴びせる向きもあります。しかしながら、そうした大人の論理よりも、松養の子ども達の途上国の子ども達に対する純真無垢なハートに、今はただ寄り添っていきたいと思うのです。